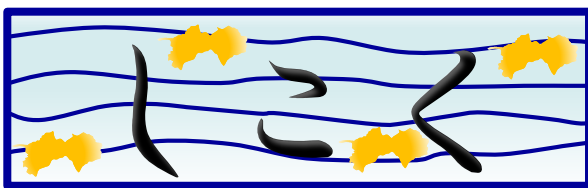


主な記事

- 令和5年度旅団災害対処演習 (1面)
- 令和5年度旅団音楽まつり (1面)
- 中部方面特科隊廃止行事 (1・6面)
- 人事往来 (2面)



令和6年(2024年)2・3月 第187号

旅団長統率方針「万事任務が基準」
旅団長要望事項「実力の進化」「地域との連携」



陸上自衛隊第14旅団広報紙

発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311(内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp

令和5年度旅団災害対処演習

—能登半島地震を踏まえ、私達にできる備え—

ホイストのための準備を行う隊員



関係機関等との実動による共同訓練として第14飛行隊は、四国の最東端にある

第14旅団(旅団長 大場剛陸将補)は、2月上旬、旅団の災害対処能力を向上させることを目的とし関係機関の参加を得て「令和5年度旅団災害対処演習」を実施した。



避難タワーからホイストを使用した救助訓練の実施
久礼第1号津波避難タワー



人命救助セットの操作教育

西日本高速道路(株)と連携し
高速道路の段差を解消

徳島県阿南市伊島において地震により電力が喪失したとの想定で四国電力株式会社及び四国電力送配電株式会社と連携し、電力復旧のために必要人員・資機材を自衛隊のヘリにより離島への空輸を行い、第15即応機動連隊は、西日本高速道路株式会社四国支社と連携し、緊急開口部を活用した高速道路への進入、進出及び段差の解消を行った。

関連 ④面



旅団唯一の火力戦闘部隊

中部方面特科隊廃止 中部方面特科連隊第4大隊へ

第14旅団は、3月19日、松山駐屯地(愛媛県)において、中部方面特科隊の廃止行事を行った。



隊旗を受け取る旅団長(写真:左)

関連 ⑥面



オープニング

当日は、約1,500名の方々に来場いただき、第14音楽隊の演奏に加え、各部隊から選ばれたらつば隊によるらつば演奏、善通寺十五聯太鼓・土佐50連龍馬太鼓による太鼓演奏、演奏と映像とのコラボレーションに加え旅団内各部隊の代表隊員による歌唱などを含め全15曲を演奏し、来場者に感動を与えるステージを演出した。



洗練された演奏で 会場を大いに盛り上げる

第14旅団は、令和6年3月2日(土)、レクザムホール(香川県県民ホール)において、「令和5年度旅団音楽まつり」を開催した。

音楽まつり中盤には、音楽隊歌姫の歌唱に加え、音楽隊員、らつば隊、太鼓隊による大規模なヲタ芸ダンスを披露し、来場者による拍手も相まって会場内は大いに沸いた。

関連 ⑤面

第15即応機動連隊

連隊長杯

第15即応機動連隊(連隊長 徳淵文雄 1等陸佐)は、3月7日、善通寺駐屯地において、「令和5年度銃剣道連隊長杯」を実施した。

本大会は、士気高揚と団結強化を目的とし、銃剣道養成訓練に参加中の陸士隊員(訓練隊所属3ヶ月以内)を対象に行われた。

訓練隊担任官(1普中長 永吉和広 3等陸佐)による開会宣言に続き、徳淵連隊長は「敢闘精神の発揮」「安全管理」の2点を要望した。また、来賓を代表して挨拶した氏家寿士氏(香川県銃剣道連盟会長)は、「日頃の練成成果を發揮し優勝目指して頑張れ!」と激励され、選手宣誓を実施した選手代表の藤原瑠希也1等陸士は、3カ月の

の練成成果を發揮し戦い抜くことを誓った。

競技開始後、各道場においてしのぎを削る選手たちは、中隊先輩隊員達の熱のこもった声援を受け、勝ちを追求しながらも礼儀を重んじ、正々堂々と中隊の代表として各道場において躍動し、連隊長要望事項等を見事に体現して見せた。一件の事故もなく盛会のうちに競技は終了し、競技を計画・運営した銃剣道基幹隊員及び担任中隊が安堵の表情を浮かべる中、参加した選手達の目は、本競技会で得た成果をもとに、次の目標に向かっていった。

連隊は引き続き、あらゆる訓練

令和6年3月18日付



第14旅団司令部会計課長
(北部方面会計隊)
3等陸佐 佐藤 廣紀



第14旅団司令部火力調整部長
(防衛装備庁)
2等陸佐 田久保 智



第14音楽隊長
(中央音楽隊付)
1等陸尉 平林 誠



第14通信隊長
(防衛装備庁)
2等陸佐 脇田 祐一朗



第14高射特科隊長
(陸上幕僚監部)
2等陸佐 渡辺 大嗣



第14情報隊
(陸上幕僚監部)
2等陸佐 濱田 安彦



第50普通科連隊長
(教育訓練研究本部)
1等陸佐 水関 謙作

転入

転出



防衛大学校付
(中部方面特科隊長)
1等陸佐 細川 香宣

令和6年3月18日付



小平学校
(第14旅団司令部会計課長)
3等陸佐 榎 洋史



九州補給処
(第14旅団司令部火力調整部長)
2等陸佐 鬼塚 崇旬



第1音楽隊
(第14音楽隊長)
2等陸尉 中福島 昭洋



西部方面情報隊
(第14通信隊長)
2等陸佐 小野田 怜



防衛装備庁
(第14高射特科隊長)
2等陸佐 鶴ヶ野 翔太



東部方面情報処理隊
(第14情報隊長)
2等陸佐 甲斐 清博

第6師団司令部
(第50普通科連隊長)
1等陸佐 山内 和也

各銃剣道大会で成果を残す

第50普通科連隊



色とりどりの「のぼり」と熱い声援を背に競技に臨む隊員達

機会を通じ、「健全かつ精進な連隊を育成」し、任務達成に向け邁進する。

第50普通科連隊は、2月29日、高知駐屯地において実施された「第5回四国銃剣道大会土佐黒潮杯」に参加した。

第50普通科連隊は、団体戦において総合優勝し、大会3連覇を達成した。

また、個人戦においては陸曹の部で上村直也2等陸曹が優勝、八木達也3等陸曹が第3位、陸士1任期以上の部では、山中飛龍陸士長が優勝、濱田陸士長が第3位、陸士1任期未満の部では、田坂陸士長が優勝、山本侑志陸士長が第2位、中津楓陸士長が第3位の成績を収めた。

銃剣道訓練隊は、今大会の結果に満足することなく今後とも日々の訓練に邁進する所存である。



一瞬の隙をつく隊員

土佐黒潮杯



団体戦優勝 第3普通科中隊 左から大坪1士、山口1士、原田1士



個人戦入賞者 左から高原1士、土居士長、笠原1士

中部方面特科隊

らっば・炊事競技会の実施

中部方面特科隊(隊長 細川香宣1等陸佐)は、2月下旬、松山駐屯地において「令和5年度らっば競技会」及び「令和5年度炊事競技会」を実施した。

らっば競技会は、能登半島地震に係る災害派遣中のため、個人戦のみが行われ、高田泰行陸士長が見事2連覇を果たした。高田士長は、準優勝を獲得した上河葵陸士長と共に、令和5年度中部方面音楽まつり及び旅団音楽まつりの選抜らっば隊にも選ばれた隊の輝ける星である。

また、炊事競技会では、災害派遣時の水や燃料が制約された状況という想定で競技を行い、各中隊の創意工夫を促進するとともに、



らっば競技会の様子



炊事競技会の様子

若年隊員に至るまで炊事能力の向上を図ることができた。なお、炊事競技会は、昨年度優勝した第1中隊を僅差で破った本部管理中隊が栄冠に輝いた。

隊は、本競技会で得られた成果を今後の練成訓練、実任務等に反映させていく所存である。



表彰式の様子

第14後方支援隊

幹部任官行事

第14後方支援隊(隊長 佐藤欣央 1等陸佐)は、3月中旬、善通寺駐屯地及び我拝師山(善通寺市)において、幹部任官行事を実施した。

第1整備中隊の大淵みやび3等陸尉、即応機動直接支援中隊の關裕太郎3等陸尉、補給中隊の浅田竜輝3等陸尉は、我拝師山(捨身ヶ嶽)を踏破し、善通寺駐屯地において、申告、服務の宣誓及び所信表明により決意を新たにするとともに幹部としての自覚及び第14後方支援隊への帰属意識を醸成した。



急傾斜を下る隊員 (我拝師山)



駐屯地に到着



サービスの宣誓の実施



隊長の激励を受ける



格闘練成の様子



熱心に指導する教官

格闘検定の実施

第14情報隊(隊長 甲斐清博2等陸佐)は、2月下旬から3月上旬までの間、普通寺駐屯地において、格闘練成及び検定を実施した。指導資格を保有する隊員を教官として、検定に向けて練成に臨んだ。今年入隊し初めて格闘を経験する隊員もおり、熱心に教官の説明に耳を傾けた。

今回初めて参加した谷田拓海陸士長は「沢山の技を練成しましたが、前方回転受け身が自分の中で一番難しく苦労しました。」と語った。

最後に、練成した技を遺憾なく発揮し全員が検定に合格した。

第14情報隊

一人前の斥候員

第14偵察隊

になるべく



空路潜入訓練

危険を伴う訓練を駐屯地・演習場並びに香川県内の山岳を使用して実施した。

総合訓練では、即応態勢の重さを改めて認識させるため訓練非常呼集により開始された。当初、総重量約30kgの背のう等を背負い、昼夜にわたり地図とコンパスのみを頼りに目標地域に山地機動し、到着後は、速やかに敵の進出状況・防衛要領を監視した。

夜間を活用した斥候では、敵陣深くまで隠密に潜入し、敵情の細部を解明する等、一連の偵察行動を行った。不眠不休で行った本訓練は、全隊員が不撓不屈の精神と同期の絆のもと無事に任務を完遂し、担任官に帰還報告を行い、その幕を閉じた。

約6週間におよぶ厳しい教育により学生たちはようやく斥候員としてのスタートラインに立つことができた。今後は、各部隊において一人前の斥候員になるべく更なる努力を期待する。

陸士特技課程「偵察」を担当

第14偵察隊(隊長 堀慎也2等陸佐)は、1月中旬から2月下旬までの間、令和5年度陸士特技課程「偵察」を担当し、旅団内各部隊から集まった11名に対して、斥候員としての知識・技能等を修得させるとともに、必要な資質を向上させた。

本教育は、情報、地図の見方、各種車両・火器・通信器材の操作及び偵察・警戒行動などの基礎的な教育の他、機関銃射撃、爆破、空路潜入及び山地機動等の

第14高射特科隊

第14高射特科隊(隊長 鶴ヶ野翔太2等陸佐)は、1月上旬から2月中旬までの間、石川県能登町において、令和6年能登半島地震災害派遣活動に参加した。地震発生直後から迅速な出動準備を完了させ、石川県能登町へ前進し、物資輸送支援任務に当たった。

災害派遣に参加した小隊長(澤尻卓己2等陸尉)は、「厳しい地形・気象状況の中で活動は困難を極めました。地域の皆様へ寄り添う一心で関係各所と連携し任務を遂行しました。物資を届けた時の被災者の顔には安堵の表情が広がり、支え合いの大切さを痛感しました。」と語り、長野大稀1等陸士は、「不安と緊張がありました。被災者のために活動出来ていると思うと頑張りました。」

令和6年能登半島地震災害派遣



自治体と連携し支援を行う様子

この経験を忘れず、任務に邁進していきたくです。」と充実した表情で語っていた。

今後は国民の負託に応えるべく第14高射隊は各種訓練を充実するとともに地域との連携を図り、即応態勢を確立・維持させる。



各避難所に物資を届ける隊員



生地での山地機動訓練



爆破訓練



地図判読訓練



総合訓練からの帰還報告

第14施設隊

部隊装備火器射撃 爆破訓練を実施

第14施設隊(隊長 吉田正幸2等陸佐)は、2月中旬から下旬までの間、日本原演習場(岡山県)及びあいはら野演習場(滋賀県)において「隊訓練」を実施した。

本訓練は、前段に部隊装備火器射撃(84mm無反動砲、個人用携帯対戦車弾等)、後段に爆破訓練(指向性散弾、対戦車地雷、破壊筒、道路爆破等)及び手榴弾投てき訓練を実施した。

本訓練に至るまでの間、武器の取り扱い教育や射撃予習及び爆破予習を幾度となく実施して、段階的に練度を向上させるとともに、各隊員に対し、訓練目的に対する目標を設定させ意義ある訓練となるよう準備を行った。

本訓練を通じ、更なる射撃能力の向上及び施設科隊員としての技能向上を図ることが出来た。



破壊筒による人員用通路の開設



84mm無反動砲射撃

指向性散弾による障害構成

第14通信隊



術科試験 (アンテナ建柱)



学科試験

に分かれて、学科試験と術科試験を行うものである。学科試験においては、通信科隊員としての一般的事項や技術の基礎となる理論、規則、技術的な知識、また関係する器材の性能や取扱操作要領について問われる。

通信科隊員としての登竜門 各種特技検定の実施

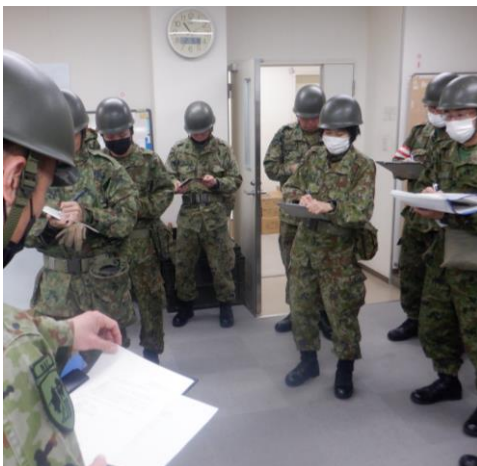
段階から各グループ長によって必要資材の見積もりと準備を行わなければならないため、今回初めて長として隊員を指揮する隊員は、慣れないことも多く混乱した様子であったが、特技検定を通して一段と大きく成長した姿を見せてくれた。

第14通信隊(隊長 小野田 2等陸佐)は、1月下旬から2月上旬までの間、善通寺駐屯地において「令和5年度特技検定」を実施した。本検定は、ネットワーク、暗号通信、システム運営及び写真という4つの特技(専門分野)

術科試験においては器材の取扱要領、通信術等特技の特徴に応じた能力を3人から6人程度のグループによる実技でもって通信所の開設からアンテナの建柱及び有線構成の手順、指揮動作及び安全管理などを評価する。特にこの術科試験では、準備

旅団災害対処演習に参加

第14特殊武器防護隊



命令下達の様子

第14特殊武器防護隊(隊長 西原清隆 3等陸佐)は、2月上旬、「令和5年度旅団災害対処演習」に参加した。当初、部隊展開地域及び機動経路の偵察を行う初動派遣部隊の派遣及び原子力災害における除染活動を行う化学支援隊を小野訓練場(愛媛県)まで推進させ、南海トラフ地震対処における計画の実効性及び災害対処能力の向上を図った。また、生活支援隊(給水等)としての任務を付与された場合を想定し、高知県内の活動が見積もられる地域を偵察し、活動地域の地形等を把握して隊の災害派遣計画への反映事項を得た。



化学支援活動訓練



派遣部隊現地出発

第14旅団司令部付隊

常に最悪の事態を想定して

第14旅団司令部付隊(隊長 菅 貴光 3等陸佐)は、2月上旬、旅団災害対処演習に合わせ、災害対処訓練を実施した。本訓練は、隊員の一部が被災し、派遣準備の中核を担う隊員が登庁できない中、指揮所の開設、生活支援に必要な資材の準備・積載、炊事等について、未経験隊員を主体に訓練を実施した。この際、「何が、どこにあって、どのように準備するのか?」を重視して訓練を行い、参加した隊員は戸惑いながらも着実に派遣準備を完了した。訓練後の意見交換において隊員からは、効果的かつ効率的に派遣準備するため、如何に平素からの準備が重要か、特に



指揮所開設の様子

「誰が見てもわかるよう事前の倉庫・資材への表示や準備資材一覧表の整備が必要である」との意見も聞かれ、隊員の即応意識の高揚を確認した。司令部付隊は今後も各種訓練において「最悪の事態を想定」しつつ、これに対応できる実力を養っていく所存である。

第14飛行隊

訓練所感

旅団災害対処訓練に参加して



第14飛行隊 陸士長 渡邊 太陽

私は、第14飛行隊整備班の航空機整備手として、日頃から航空機の整備を行っています。南海トラフ地震等の災害発生時には、航空機のホイスト装置を使用して人命救助を行います。今回は、令和6年2月に実施された旅団災害対処訓練を通じて、感じたことを投稿します。 今回の災害対処訓練は2日間に亘って行われました。1日目は発災直後の初動対応訓練です。格納庫にある航空機をエプロンに搬出、その後被害状況把握のための航空偵察等を行いました。2日目は、ホイスト訓練です。津波で避難タワーに取り残された人を救助するという想定の下、昼夜間にわたり訓練を実施しました。避難タワーでの訓練は初めての経験であり、さらに降着場所はとも狭かったため緊張しましたが、日頃の訓練の成果を発揮し普段通りに実施できたと思います。 実際に災害が発生した時に、一人でも多くの方を早く、安全に救助するためには、日々訓練に精進し、いつでも普段通りに行動ができるよう、練度を積み上げておくことが大事だと感じました。



昼夜におけるホイスト訓練の実施



炊事訓練の様子

令和5年度第14旅団音楽まつりで様々な演目を披露



選抜らっぱ隊による
らっぱドリル

14旅団公式HPでも
様々な写真を公開中です♪



第14音楽隊はファンファーレ演奏に始まり、ステージドリル、ビッグバンドジャズ演奏、ステージ演奏を行った。

中でもビッグバンドジャズ演奏曲の「シング・シング・シング」では、陸上自衛隊公式キャラクターのタクマ君に扮する隊員のドラム演奏が好評を博した。

また、旅団選抜らっぱ隊とのコラボレーション演奏は、音楽隊との息の合った演奏とらっぱ手のステージドリルで会場が大いに盛り上がった。

当日は募集対象者である学生や周辺住民等の幅広い聴衆に会場いただき、第14旅団のPRに大きく貢献することができた。

第14音楽隊(隊長 中福島昭洋2等陸尉)は、3月2日、「令和5年度第14旅団音楽まつり」に参加した。

第14旅団音楽まつりは、香川県高松市のレクザムホール(香川県民ホール)において例年行われている。

第14旅団主催のイベントで、第14音楽隊の他に旅団管内から幅広い部隊が参加し、自衛太鼓演奏、らっぱ吹奏及びドリル等を披露するものである。



タクマ君によるドラム演奏

企画・構成 趣向を凝らす

部内・外表彰

部内

- 第103期幹部初級BU課程 信友会長賞
- 第14通信隊 3等陸尉 水原 諒二
- 第91期初級陸曹特技課程(偵察) 富士学校普通科部教育課長賞
- 第15即応機動連隊 3等陸曹 大嶋 健太郎
- 第147期初級陸曹特技課程(戦車・機甲戦闘車) 機甲科部長賞
- 第15即応機動連隊 3等陸曹 川上 侑樹
- 機甲科部教育課陸曹教育班長賞 3等陸曹 山下 陽世
- 初級陸曹特技課程(軽火器) 第4陸曹教育隊長賞
- 第15即応機動連隊 3等陸曹 池田 侑司
- 三軒屋駐屯地警備支援 「褒章メダル」(三軒屋駐屯地司令) 第14後方支援隊 1等陸士 多田 亮石
- ライジングサンダー23 「褒章メダル」(米陸軍第14砲兵旅団長) 第15即応機動連隊 3等陸曹 角田 俊輔
- 「褒章メダル」(第13旅団第8普通科連隊長) 第15即応機動連隊 2等陸曹 小島田 斗南
- 第14情報隊 1等陸曹 金久 史郎
- 「褒章メダル」(米陸軍第17砲兵旅団長) 第14情報隊 根木 敦貴

部外

- 第44回中部地区自衛隊剣道大会 団体戦「優勝」 第15即応機動連隊 先鋒 陸士長 山本 悠太
- 次鋒 3等陸曹 川崎 孝
- 中堅 3等陸曹 山本 大地
- 副将 3等陸曹 鈴木 裕貴
- 大将 2等陸曹 山口 澄之
- 敢闘賞 第15即応機動連隊 陸士長 山本 悠太
- 令和5年度第95回香川県社会人リーグ 卓球大会 四部「優勝」(チーム普通寺自衛隊)
- 第15即応機動連隊 3等陸曹 峯 吉規
- 3等陸曹 故島 壮佑
- 第63回県下剣道段別選手権大会男子七段の部 「優勝」 第14情報隊 小川 直樹
- 第23回全日本短剣道大会 「第3位」(男子団体の部) 第50普通科連隊(チームC) 先鋒 3等陸曹 山下 裕生
- 中堅 3等陸曹 石井 陵祐
- 大将 3等陸曹 政岡 幸汰
- 「第3位」(個人成年Aの部) 第50普通科連隊 3等陸曹 石井 陵祐
- 「第3位」(個人成年Bの部) 第50普通科連隊 2等陸曹 上村 直哉

隊員家族投稿

「お母さん」

第15即応機動連隊
2等陸曹 日吉 道子
娘 陽帆ちゃん



私のお母さんは自衛隊さんです。

いつもお仕事をとてがんばっていらっしゃいます。お家に帰ると、ごはんを作ったり、洗たくをしたり片付けをします。

私はテレビをみていますが、地しん等の速報が流れるとお母さんは気付いていないので、いつも

私が教えてあげます。教えてあげると、「分かったよ!ありがとう」と言ってくれます。私はお礼をすぐにつけてくれるお母さんです。地しんのことを伝えるとお母さんはお仕事の顔になってしまいます。お母さんがお仕事に行くとさびしいです。でも私は地しん等の速報があつたら教えてあげます。これからはお仕事をがんばってほしいです。

何事に対しても、意欲的で業務の中での問題点を常に考え、業務に取り組んでおられます。また、班長の補佐、後輩指導にも力を入れており、先輩、後輩ともに信頼されている人です。

第14後方支援隊 故島3曹

周りの方に聞きました! 亀滝3曹はどんな人ですか?

忙しいことも多いですが、支援を行った際、各部隊の方々から感謝の言葉を頂いたときは、とてもやりがいを感じます。

普通寺駐屯地所在部隊や第14旅団隷下部隊への入浴、洗濯支援、水タンク車による給水活動、浄水セットを使用した水の浄水等を行っています。

入浴、洗濯、給水、浄水の使用目的、用途及び作業種類は多種多様であり、かつ緊急を要するものもあります。その中で各部隊のニーズに合った支援を行うことで隊員の身体的疲労及び精神的疲労の回復に努めています。

日々取り組んでいます。忙しいことも多いですが、支援を行った際、各部隊の方々から感謝の言葉を頂いたときは、とてもやりがいを感じます。

今回は旅団唯一の兵站支援を行う専門部隊である「需品サービス班」に所在している亀滝3曹にスポットを当てていきます。

亀滝3曹に聞きました! 日頃どのようなお仕事をされていますか?

第14旅団唯一の入浴、洗濯支援を行う 需品サービスのプロフェッショナル



第14後方支援隊

亀滝 奏人(かめたき そうと) 3等陸曹
趣味 : バスケットボール
好きな食べ物 : 焼肉、甘いもの

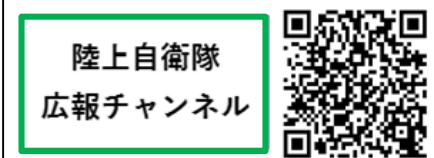


KEY PERSON

14th Brigade



陸上自衛隊 第14旅団
逐次発信中!



陸上自衛隊広報チャンネル
(YouTube)に
「自衛隊式感染症予防」
を掲載中!

中部方面特科隊

旅団火力戦闘の骨幹部隊の歴史に幕

沿革

昭和56年3月、第2混成団の新編に伴い、第13特科連隊第4大隊及び第5大隊第12中隊を基幹部隊とし、第6大隊から1個高射中隊を含め日本原駐屯地(岡山県)において、第2混成特科大隊として編成されました。その後、装備火砲が105mmりゅう弾砲及び155mmりゅう弾砲M1/58式から155mmりゅう弾砲FH70に改編され、さらに平成6年3月には日本原駐屯地から松山駐屯地へ移駐し、松山駐屯地の主力部隊として、その伝統を重ねてきました。

平成18年3月、第2混成団の旅団化改編により第14特科隊に、また、平成30年3月、第14旅団の機動旅団化改編により、中部方面特科隊として生まれ変わり旅団の火力戦闘の骨幹部隊として任務を達成すべく練成に励んできました。



中部方面特科隊長
細川 香宣 1等陸佐

令和6年3月21日、中部方面特科隊はその歴史に幕を下ろし、中部方面特科連隊第4大隊として、新たな歴史の1ページを刻み始めます。

中部方面特科隊長として奉職したこの1年3か月は、短くも非常に密度の濃い期間でした。旅団の新たな火力戦闘・火力調整要領の案出、レジリエンスの向上、日米共同の深化等、旅団の火力戦闘骨幹部隊としての任務を着実に果たして参りました。

中部方面特科連隊第4大隊は、第14旅団とは平素隷属の関係ではなく、同じ任務を遂行するチームの一員として、引き続き密接な関係を保ち、この四国に所在する唯一の火力戦闘部隊としての役割を果たし続けて参る所存です。

体制移行に伴い賜った第14旅団のみなさまのお力添えに感謝申し上げますとともに、中部方面特科連隊第4大隊の発展を祈念いたします。



年表

2024

2018

2006

1994

1981

令和6年 体制移行に伴い中部方面特科連隊第4大隊へ



平成30年 第14旅団の機動旅団化改編に伴い中部方面特科隊へ



平成18年 第14旅団編成完結に伴い第14特科隊へ



平成6年 松山駐屯地へ移駐

昭和56年 第2混成団特科大隊編成完結

